

理事長所信

公益社団法人 下館青年会議所

2017年度 理事長 石塚 勝

東日本大震災・鬼怒川の決壊など、私達は想像することの出来ない体験をして来ました。自然災害がこんなにも起こり得る事を実感し、不安と心配の連続でその感覚は忘れることが出来ません。そんな中助け合える仲間がいる事が非常に心強かったことが思い出されます。何も知らずに働き、生活をする。その中に他に必要な要素は特に無いかも知れません。ですが、あえてこの青年会議所運動が必要とされる理由が浮き彫りになったのではないかと思います。

《はじめに》

2006年に入会した私は、青年会議所という存在を知りませんでした。何をするのか、どんな人がいるのか、期待は無く心配しかありませんでした。入会したきっかけはメンバーとして活動している知人の紹介でした。言われるままにスーツに着替え、総会に出席し認証され活動を始める。何かを求めて入会する人も、私のような人も色々な状況で活動を始めるのではないのでしょうか。

- ・ 雨風を うけて根をはる 草々の
種に秘めたる 花の確かさ

どうしてこのような活動をするのか。何のために入会して、何のために活動して、どのように卒業して行くのか。考えてわかるものでもなく振り返ってみると沢山の出会いと感謝の連続のように思います。私達青年世代はきっと忙しい時間を過ごしていると思います。世界で17万人もメンバーがいても青年会議所を知らない人は沢山いて、入会していてもいなくてもつらいことや楽しい事は大不了小なりあるはずで、雨風が強い日に無理に何かをしなくても雨風はいつかやんで、持っている種が自分なりの花を咲かせる。花は与えられた場所で咲くもので、咲く場所を選んではいられない。今、自分が置かれている状況を認識し、出来る事を確認し、咲くべき時に咲き、そして誰かに種を植える。この繰り返しが出会いであり、青年会議所の運動そのものではないかと思います。私は理事長としてどれだけの種を植えられるか挑戦したいと思います。人は人に種を植えなが

ら生きている。このような言葉を聞いた事があります。沢山の出会いの中で思い返せば先輩方の叱咤・激励もさることながら、当然青少年育成事業での子供達に勉強させられることもあります。何も無い状態でゼロをイチに変える為には何かしなければなりません。すべては自分たちの行動から始まるのであり、どんな形であろうと私達は行動し、何かの為に、誰かのために、そして自分達の為に活動していかなければならないと思います。私達個々の成長が必要だと確信しています。

《謙虚な気持ちで会員拡大》

近年、会員拡大はどのような団体等でも課題となっていると思います。そんな中、人数が多い必要があるかと考えました。そんな思いを抱えながらブロックへの出向や他青年会議所との交流に出掛けると会員拡大の声は必ず上がります。少ない所では10人前後で活動しているメンバーもいて苦悩している姿を見て来ました。青年会議所活動がやらされているように見える所もあり、そのような事実を知り、下館青年会議所は非常に恵まれているのだと認識することが出来ました。先輩から受け継いだ情熱や歴史と、同時期に活動できる沢山の仲間がいること。年齢や仕事も違う、きっと話すことの無い人達と接点を持てるこの機会を大事にするべきだと強く思います。奉仕・修練・友情の三信条のもと私達は個人の成長の為に活動しています。その活動を共にしてもらいたい、また志の高い人達と触れ合うことで私達は成長出来る、その為に一緒に活動してもらいたいと伝えながら組織を強固にしていく必要もあると考えます。

《まちづくりという概念を超えて》

まちづくりという言葉が流行しているように思います。あるアンケートではなりたい職業・興味のある事業と聞くとまちづくり事業とあがるように、大学や自治体でもまちづくりに対する姿勢が目立ってきているような気がします。昨年は市民討議会をお休みし、検証ということで沢山の評価を頂きました。市民討議会という手法のおかげで自治体との距離は近くなり筑西・桜川市の職員の皆様との関係や親しみも持ちやすくなったことは間違いありません。これらを振り返ると自治体や各団体との関係を築く事により私達の活動が公でも認知され易くなり、また理解をしてもらえるようになって来たのではないかと思います。公益法人格を取得し様々な人達と触れ合うことで自分達の団体以外に目を向けるようになったことは、多くの方々に認めて貰うため必然的な事だったと思います。そして、私達のまちづくり事業をきっかけに自治体や各団体を引っ張れるような事業を展開していきたいと思います。

《自分達に磨きをかける公益事業》

実るほど頭を垂れる稲穂かな。とあるように、私達は常に謙虚であるべきだと思います。沢山の学びを経て、数々の出会いから経験を積み、体験をし続ける青年経済人の私達は時に気持ちが大きくなり、横柄な態度をとったりすることもあると思います。青年会議所では特別な経験・体験をさせて頂き、個人のベースアップになる勉強に溢れています。その事が当たり前になり、学ぶ姿勢や他人への敬いが薄くなってきてしまっただけでは本末転倒であると考えます。青少年育成事業や研修事業といった公益事業では多くの青年会議所以外の方々の協力を必要としています。この協力していただける方々や、メンバーの間にも当然の敬意を表し、情熱を持ってお願いする事も一つの学びだと思い、当たり前のことを当たり前にする、凡事徹底の精神で2017年度の公益事業を盛り上げて生きたいと思いません。

《交流という言葉》

他青年会議所の周年事業・茨城ブロック協議会への出向サポート等、周知の通り沢山の対外事業があります。それらに出向き、多くのメンバーと触れ合うことは正に宝といえる出会いがあります。その為に多くのメンバーで参加し切磋琢磨することでより絆を強くすることが出来ると思います。その背景には記念すべき40周年を間近に控え、これまでを築いてきてくださった先輩方をはじめ県内の友好青年会議所メンバーの皆様と少しでも多く接したいと強い気持ちを持っています。また、その先50・60周年と続いていくであろう事を期待して、広報活動も行います。下館メンバー以外に私達の活動や組織自体を知ってもらうことを考え、事業の案内や活動の報告をし続けることで未来のメンバーへの発信として、更なる交流の場を作り続けます。

《組織として継続する為に》

昨年から導入している日本青年会議所の予算決算様式は本年度も引き続き採用します。ですが、本年度は予算審査だけをメインに考えるのではなく内部強化委員会（仮）と称して文字通り組織の内側を意識していきたいと思えます。日本青年会議所が定めるプログラムやセミナーの受講等も検討していきます。また、理事会・総会の設営につきましても今まで通り、そしてさらに磨きをかけてしっかりとしたセレモニーが出来るように精査していきます。

組織として継続していく為に今までの歴史を振り返り、色々な事業を通して強い組織作りをしていきたいと思えます。後世に繋いでいく事を意識して創立記念懇談会をはじめとした事業を展開していきます。

《おわりに》 我思う、故に我在り
奉仕・修練・友情。三信条に基づいて、まずは自分がどうなりたいかを考える必要があるかと思えます。自分がどうあるべきか。何のために活動・仕事・生活をしているのか。他人がどうかと比べたり他人を疑ったりするよりも、まずは自分に課せられた試練を乗り越えるべきだと思えます。そして個人が自立した意識を持って他が為に活動できるような成長を遂げられればもっと素晴らしい組織になれると信じています。
一年間よろしくお願い致します。